凡　例

1　本書は『日本近世生活絵引』の1巻、北陸編である。

2　本書は、土屋又三郎『農業図絵』（日本農書全集第26巻（社）農山漁村文化協会　2005年6刷）の挿絵から、主に加賀前田藩の城下町をゆきかう人びとやそこで生活する人びとの描写から30の描写を選択し、郊外の御供田村で農業や娯楽にいそしむ人びとの描写から5の描写を選択した。そのうえで、文字説明、その他不要と思われる部分を除き、図像として描かれた事物・行為に番号を付け、それらを表現する語をキャプションとして与え、また図全体を読み取り、解読した。

3　北陸編ではⅠ部、Ⅱ部の編成とした。Ⅰ部は「金沢城下と近郊農村」、Ⅱ部は「金沢城下をゆきかう人びと」である。Ⅰ部では『農業図絵』に描かれた挿絵の流れにそって、Ⅱ部では1武士、2僧侶、3町人、4女性と子ども、5芸能・卑賤の民、6百姓にグループ分けして、図絵を配列した。したがって、Ⅰ部は図絵の主題に基づく章などの編成替えをしておらず、Ⅱ部は試論的に図絵の主題に基づく章の編成替えを試みた。

4　一つの図とそれに対するキャプション・読み取り解説を原則として見開き2ページに収録した。したがって、対象の図の大きさによって、拡大もしくは縮小しており、原本の大きさとは一致しない。なお、図は必ずしも原本の描いた範囲ではなく、必要に応じてトリミングをし、また詞書きなどは消去してある。

5　各図に付ける番号は、以下の原則のいずれかによった。

　a　その図像に与えたテーマに即して、テーマに近い事物から周辺的な事物へと付ける。

　b　遠近法に従い、図像の中の近いところから遠いところへと付ける。

　c　描かれた図像内容の時間の展開にそって付ける。

　d　右上から左下へS字形に付ける。

6　番号に対する語の記載に際しては、まとまった全体についての語の場合は○を、また行為を示す場合には□を、それぞれ番号に付けた。

7　各事物・行為に付ける語は、以下の基準によった。

　a　原則として事物単体にキャプションを付ける。

　b　名称は図像が描かれた江戸時代の表現・表記を優先させ、カッコ書きで補記した。

　c　所作・行為のキャプションは現代語で付けた。

　d　推測・推定・想像によるキャプションはできるだけ避けるように心がけ、推測・推定・解釈に及ぶことは読み取り解説で記述した。しかし、厳密ではない。

8　本書の編纂は共同研究の方式で行われ、研究参加者で検討したが、各図の読み取り解説については個人の責任で執筆した。Ⅰ部は田島佳也、Ⅱ部は泉雅博が読み取り解説をした。

9　本書編纂過程で獲得した知見は各人が解説のなかで記述した。

10　文末にはキャプションとして付けた語句についての五十音順索引を付した。

11　『農業図絵』の『絵引』化にあたっては、次の方がたのご協力とご教示をえた。
伊藤玲子　桜井健太郎　清水隆久　新藤彩　関根梨紗　長島淳子　新原淳弘　平岡諒子　本谷英基